

平成29年度

# 牟岐中学校 「学力向上実行プラン」

## 研究テーマ

- ①主体的に学習する生徒を育てる、わかる授業の充実。
- ②保小中の系統的な学習方法の確立。

## 学力向上検討委員会構成

学力向上推進員(研修主任) 鈴木 雅美  
 学校長 三浦 恵子 教頭 榎並 正人 教務主任 笹田 晋介  
 第1学年主任 豊崎 朝子  
 第2学年主任 丸岡 弘典  
 第3学年主任 中口 尚美

校長

三浦 恵子



### (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よ さ 課 題	学習意欲を持ち、与えられた課題に確実に取り組む。学校評価(自己評価)で生徒の89%が「授業に真面目に取り組んでいる」と回答した。どの教科においても「知識・理解」については一定の成果が見られる。	①意欲的に授業に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。 ②適切な言葉を用いて文章を読んだり書いたりできる。	定期テスト前に、個々の生徒が各教科の目標点を設定し、その自己目標を達成できる生徒の割合が80%以上			
	昨年度のテストでは、国語は県平均と比べて、話す・聞くが得意で、書くことが苦手だった。数学は活用に課題があった。英語は、2年生の英検5級到達人数が県平均68.8%を下回る61.3%であった。	①授業の初めに「めあて」を提示し、授業の終わりに「振り返り」を位置付け、わかりやすい授業を展開する。 ②ワークシート等の教材の工夫、ドリル学習や小テストを行うなど授業改善に努める。	①わかりやすい授業が展開されていると思う生徒の割合が80%以上 ②知識・技能において、A・B評価の生徒の割合が80%以上	評価	次年度における改善事項	

### (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よ さ 課 題	「人権学習」、「キャリア教育」の授業を通じて、生徒が自分で調べたことや考えたことを発表したり、文章で表現する機会を多く設けた結果、他教科でも積極的に言語活動等に取り組む姿勢が、見られるようになってきている。	すべての授業を通して、自分の思いを正しく表現できる力を育む。異年齢の関わりや地域の人との豊かな関わりの中で、積極的に言語活動に取り組むことができる。	毎日1回以上、手をあげて発表している生徒の割合が80%以上 総合的な学習の時間に学習のまとめを発表できる			
	「週に1回以上発表する」生徒の割合が低かった。授業で自主的に発表する機会が少なかったため、授業の在り方の検討が必要である。表現する力をつけていくために、プレゼンや行事ごとの作文を書くなど、あらゆる場面で実施していくことも必要である。	総合的な学習の時間では、地域の方と連携し、専門性の高い方を講師に招き、生徒主体の体験的な活動を促進する。学んだことを他のコースの生徒や地域に発信し、表現する力を伸ばす。	生徒自身の考えを筋道を立てて発表する機会を1週間に1回以上 総合学習で学んだことを他コースや地域の方に発表する機会を設ける	評価	次年度における改善事項	

### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よ さ 課 題	前向きに学習に取り組む姿勢がみられ、自主学習ノートや宿題プリントなどの課題にも真面目に取り組むことができている。	①学ぶ楽しさや喜びを感じて、自信をもって粘り強く学び続けることができる。 ②よりよい人間関係の中で安心して学校生活を送ることができ、家庭における学習習慣が身についている。	「分からないときあきらめないで考える」や「疑問に思うことを自分で調べている」と答える生徒の割合が80%以上 学校が楽しいと答える生徒の割合が90%以上			
	上の学年になるにつれ、成功体験を生かした目標のある意欲的な生徒が増えてきている。固定化された小集団での学習に慣れ、自ら課題を見つけていくなど探求心を持って取り組む意欲が乏しく二極化傾向がある。	①保・小・中一貫教育推進に取り組み、生徒の主体的な体験や活動を取り入れ、魅力的な学校づくりに努める。 ②模範となる取り組みを提示し、生徒の意欲を高めたり、成功体験を多く味わうことができる授業を工夫する。	①小中連携オープンクラスを年3回以上、市宇ヶ丘研修会を年3回以上 ②自主学習ノート・星取り表など振り返り改善する機会を各学期2回以上	評価	次年度における改善事項	

## 平成29年度 学力向上ロードマップ

